

普及活動情勢報告（令和5年6月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

今年の生育状況はどうか ～中芸集出荷場オクラ部会現地検討会、目慣らし会～



生育状況を確認する生産者

5月23日、24日、中芸集出荷場オクラ部会が、安田町、北川村、奈半利町で現地検討会及び目慣らし会を開催し、生産者38名が参加しました。農業改良普及課は、害虫でこれからの時期に問題となるハスモンヨトウやフタテンミドリヒメヨコバイの生態や対策等の説明を、JAは、今後の栽培管理や新規薬剤の紹介と出荷規格の変更点について説明を行いました。

生産者は、果実にメジャーをあてながら規格の再確認を行うとともに、基本的な栽培管理や害虫対策について理解を深めました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、部会活動への支援を行っていきます。

センリョウの調子はどうかね ～JA吉良川千両部会現地検討会～



意見交換する参加者ら

5月26日、JA吉良川千両部会は現地検討会を開催し、生産者8人が参加しました。農業改良普及課室戸支所は、前年度に減収の主要因となった炭疽病の防除方法を中心に、梅雨時期以降における栽培の注意点を紹介しました。

参加した生産者からは、紹介した薬剤の抵抗性や同時防除等についての質問があり、防除に対して前向きな姿勢がみられ、生産者間での意見交換も活発に行われていました。

室戸支所では、高品質な吉良川センリョウの生産出荷に向けて栽培管理等を指導していきます。

稲WCSの栽培が始まる ～農事組合法人庄毛ファーム～



機械による湛水直種作業の様子

5月27日、室戸市の農事組合法人庄毛ファームは、鉄コーティング種子を用いた稲WCS（品種クサホナミ：2.4ha）の湛水直播作業を行いました。農業改良普及課室戸支所は、毎年雑草の多発が問題となっているため初期の除草剤のタイミングと水位の調整について、現地ほ場で指導しました。

1葉期経過後の状況では、除草剤散布までの作業は遅滞なく行われ、発芽は良好で、雑草の発生も抑えていました。

室戸支所は、引き続き巡回指導により、稲WCSの安定生産に向けて支援していきます。

管理しやすい樹を目指そう！ ～ユズ誘引講習会を開催～



誘引を実演する普及指導員

5月28日、安芸市畑山現地ほ場で、JA安芸地区ユズ部会がユズ講座を開催し、部会員34人が参加しました。この講座は平日に参加できない生産者のために、日曜日に開催しているもので、今回は幼木期の重要な管理作業である「誘引」について行いました。農業改良普及課はユズの樹の特徴や誘引の目的を説明し、JA営農指導員と実演しながら作業の方法やポイントを指導しました。参加者からは、芽かきする芽や誘引時期の質問が出され、栽培管理について活発に意見交換する様子がみられました。農業改良普及課は今後も栽培技術の向上に向けた支援をしていきます。

経営にムダはないですか？ ～カイゼン方式による経営内容の点検～



カイゼン指導を受ける農家

高知県では、県内各地の農家の経営改善に役立てるため、(株)カイゼン・マイスターのアドバイザーを招聘し、農家の経営内容を見直し、無駄を省いて効率化を目指すカイゼン活動に取り組んでいます。管内でも1件の農家が手を挙げ、農業改良普及課は3月から経営上の課題や改善点を整理し、アドバイザーと共有し、6月6日に現地へお越しいただきました。アドバイザーからは作業場のレイアウトや資材の置き方などについてアドバイスをいただき、農家からは、「そういうやり方があったのか」や「すぐに改善してみる」といった意見がでました。農業改良普及課では引き続きカイゼン活動を支援し、農家の経営の効率化が進むよう支援します。

決算書からわかること ～赤野支部園芸部研究会勉強会～



損益分岐点と投資計画についての説明の様子

6月19日、赤野支部園芸部研究会勉強会が開催され、農業者9名が出席しました。普及課からは、重油や肥料、資材などのコスト高や販売単価の回復が緩やかであることから、厳しい状態の中、新たな投資を考える際の参考にしてもらえるよう「決算書からわかること」として損益分岐点と投資計画について情報提供しました。出席者からは、「家に帰って自分の決算書で試してみたい」「肥料が上がり、重油代が上がり経営は厳しいが農業を辞めるわけにはいかない」などの声が挙がりました。農業改良普及課では、今後も関係機関と連携しながら、経営安定に向けて支援していきます。